

## 知っていましたか？実はヒートショックが一番起こりにくい地域は北海道！

～知らない人が多数 重要なのは温度の低さよりも温度差～

一年間のヒートショックによる死亡者数は、交通事故の約4倍というデータもあり、健康と住宅環境との関連は、今なお様々な調査・研究が行われています。

### ●交通事故より多い入浴中の死亡者数

入浴中の死亡者数 4,821 人 (対前年 342 人増加・7%増加)

交通事故死亡者数 3,061 人 (対前年 159 人減少・5%減少)

H28 年 (2016 年) 消費者庁

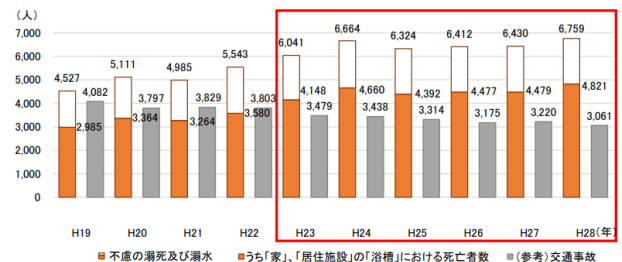


図 高齢者の不慮の溺死及び溺水による死亡者の年次推移

資料：消費者庁「冬季に多発する入浴中の事故に注意ください！」(2018.11.21)より転載

## 2018年11月WHO(世界保健機関)が健康保護のために冬季における室内温度は18度以上が望ましいと勧告

### ●ところでヒートショックって何？

『住環境における急激な温度変化によって血圧が乱高下したり脈拍が変動する現象』

ヒートショックでとくにリスクが高いのは、冬の入浴時。

暖かいリビング→寒い脱衣所(血管収縮)→血圧上昇

→熱い浴槽(血管拡張)→血圧降下

急上昇した血圧が一気に下がり(ヒートショック)、失神を起こして浴槽で溺れて亡くなるというケースが多くみられる。



### ●「住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 第4回報告会」に出席

この全国調査は国土交通省と厚生労働省が協働している、というところも注目すべきところであり行政が垣根を越えて『住環境と健康』の重要性を真剣に取り上げています。

詳しくはこちら☞日本サステナブル建築協会 <http://jsbc.or.jp/>

その報告会に、特別講演として近畿大学医学部准教授の東賢一氏が登壇し、「住環境は断熱化に限らず広い視野で検証していく事が必要」と提唱。

東氏はWHO(世界保健機関)が2018年11月に策定した【住まいと健康のガイドライン】の開発グループ委員を務めておられ、ガイドラインには住居内の過密性や冬季の低温住宅、夏季の室内熱中症などのリスク提起のほか、AirQualityの重要性についても触れられています。

ここから分かる事。全国調査やWHOの新ガイドラインといずれも国家・世界レベルで『住環境がどれだけ健康にとって重要か』ということの検証だけに留まらず、行動を起こし始めているのです。

私たちエバーウォールは2001年から、塗り壁と健康をテーマに行動を起こして参りました。住環境の改善は様々な切り口がありますが、AirQualityから考えてみませんか？